

次 期 教 育 大 綱 案

資料 1

	次期教育大綱策定の考え方 (第 5 3 回総合教育会議資料)		教育大綱本文案（めざす姿）	取 組 内 容
5 こ れ か ら の 公 立 幼 稚 園 が 果 た す べ き 役 割	①	これからの公立幼稚園は、小規模であることや多様性を強みに変え、また、そのことを積極的に発信していきます。 保護者と一緒になって、子どもたち一人一人を丁寧に育むとともに、保護者を支え、保護者の思いをしっかりと受け止めていきます。また、外国につながる子どもたちや、特別な支援が必要な子どもたちへの配慮と丁寧な支援を心がけ、多様化する保育ニーズにしっかりと応えていきます。	津市の公立幼稚園では、小規模であることを強みに変えて、子どもたち一人一人を丁寧に育み、特別な教育支援を必要とする子どもたち、外国につながる子どもたちなどへの配慮と丁寧な支援にも心がけるとともに、保護者の思いをしっかりと受け止めることで、多様化する保育ニーズにしっかりと応えるよう取り組んでいます。	・家庭や地域及び他の関係機関と連携を図り、それぞれのニーズに応じたきめ細やかな支援を充実させます。 ・公開保育や研修の在り方を工夫し、子どもたちが身近な環境に主体的に関わり、遊びを通して豊かな資質・能力が育まれるよう、教職員の専門性を高める研修体制の充実を図ります。 ・特別な支援を必要とする子どもたち、外国につながる子どもたちなど、個に応じた支援のあり方を工夫することで子どもの可能性を伸ばす取組を進めます。 ・子どもを支える大人が、子どもの生き生きとした成長を共有できるよう、地域資源を生かした体験活動を重視した取組を進めます。 ・子どもの豊かな学びを支えられるよう、家庭教育の充実に向けた子育て支援センターとしての役割を果たしていきます。 ・外国につながる子どもが安心して就学できるよう、就学前日本語教室「つむぎ」の取組を拡充します。
	②	公立幼稚園は、持続可能な社会の創り手の育成のため、津市の架け橋プログラムを牽引し、地域の保育のリーダーとして私立幼稚園、公私立保育所、認定こども園との連携を図り、幼児教育を小学校教育にしっかりと繋げていきます。そこに公立幼稚園の存在意義があります。 また、このために、津市の幼稚園教育の歴史、伝統、文化を園内研修等を通じてしっかりと伝承するとともに、引き続き幼稚園教諭の人材確保に努めます。	津市の公立幼稚園は、持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育成するため、地域の保育のリーダーとして、私立幼稚園、公私立保育所、認定こども園との連携を図り、幼児教育を小学校教育にしっかりとつなげる役割を果たし、幼児期からの一貫した教育の推進に努めています。	・津市架け橋期カリキュラムをもとに幼児教育及び小学校教育に携わる教職員が、子どもの資質・能力が育まれていく過程など、気軽に話し合える関係性を構築し、教育課程の接続に向けて協働して取り組みます。 ・津市の就学前教育の充実に向け、公私立の幼稚園、保育所、認定こども園の教職員で合同研修会等を実施するとともに、指導主事や架け橋サポーター、幼児教育アドバイザーによる公私立の幼稚園等への訪問支援等を通して、幼児教育と小学校教育をしっかりとつないでいきます。 ・学校、家庭、地域が総がかりで、子どもたちの非認知能力を育成するため、生涯にわたる人間形成の基礎が育まれる幼児教育の重要性を広く周知し、取組への理解・協力を図るため、パンフレットや通信等で積極的に発信していきます。

	次期教育大綱策定の考え方 (第53回総合教育会議資料)		教育大綱本文案（めざす姿）	取 組 内 容
2 教職員が元気で生き生きと、笑顔で働くことができる学校づくり	③	子どもたち一人一人のウェルビーイングが確保されることが、教員のやりがいにつながり、更に教員のウェルビーイングの向上へとつながっていきます。 誰もが幸せになるウェルビーイングの実現のため、教員が子どもたちとしっかり向き合うことができる時間の確保に努めます。	子どもたちは、安心して学び、自分の力をのびのびと発揮し、教職員も幸せややりがいを感じている、そんな子どもたちの笑顔あふれた津市の学校では、子どもだけでなく教職員一人一人のウェルビーイングも向上しています。 子どもたちの学びにとって最も大切な環境は「教職員」です。津市の学校では、教職員が子どもの成長に実感できる喜びを感じ、生き生きと子どもたちに向き合いながら、やりがいをもって働くことのできる環境が整っています。	・子どもたちが、「自分は大切にされている」という実感を持つことができるよう、一人一人の個性の伸長を図る教育活動を進めるとともに、学ぶ楽しさやわかる喜びを実感できる授業づくりをより一層推進し、子どもたちの自己肯定感や幸福感など、ウェルビーイングの向上を図ります。 ・教職員の業務負担の軽減を図るとともに、質の高い教育活動を通して子どものいきいきとした成長に関わるなど、教職員自らがウェルビーイングに向かいポジティブな発想と行動を積み重ねていくことの大切さを発信していきます。 ・子どもたちに育みたい資質・能力の育成に向け、総合的な学習の時間や生活科を中心とした教科等横断的な学びを充実し、地域の人的・物的資源をいかしながらカリキュラム・マネジメントを図ることで、授業改善及び業務改善につなげます。 ・教員は、日々の授業や生徒指導、家庭訪問等を通して子どもや保護者との信頼関係を築いていきます。「教員でなければならない業務」に教員が集中できるよう、その他の業務内容（例：配布物印刷、データ入力、教室環境整備など）を明確にし、その業務を担う教員支援員やスクール・サポート・スタッフ、学習支援員の増員に取り組みます。
	④	子どもたちの学びの環境にとって最も大切なことは「教員」です。教員が生き生きと子どもたちと向き合うことができ、教員でなければできないことに集中できる環境を整備するため、引き続き、教員支援員やスクール・サポート・スタッフ等の充実を図ります。		
	⑤	教員は子どもたちにとって憧れの存在です。子どもたちが先生になりたいという夢を育んでいくためにも、教員には、教育の資質の向上と情熱が必要です。このために、教員が新しい知識・技能等を学び続けていくことができるように努めます。また、このことが教員志望（若い講師等）を増やすことにもつながります。	教職員は、子どもたちの人生に影響を与える存在です。 教職員は、子どもたち一人一人の力を最大限に引き出し、主体的な学びを支える伴走者として、教職生涯を通じて学び続け、多様な教育課題に対応できる資質・能力の向上を図るとともに、教職の魅力を積極的に発信しています。	・教職員が、子どもたちの多様性を受け止め、受容的・共感的な態度や、ニーズに応じて対応することができる力を身につけるなど、子どもたちの自己肯定感や幸福感を育むことにつながる日々の取組や研修内容等の充実を図ります。 ・多様な教育課題に丁寧に向き合い、子どもや保護者との信頼関係が築ける学校体制の強化を図ります。 ・教員養成を担う大学と連携し、定期的な意見交流等を行うとともに、教員を目指す学生が、将来、確実に教職を選択するよう教職の魅力ややりがいを積極的に発信する場を設けます。

	次期教育大綱策定の考え方 (第53回総合教育会議資料)		教育大綱本文案（めざす姿）	取組内容
1 子どもたち一人一人に応じた教育の推進	⑥	子どもたちが主人公であり、子どもたちの意見を聴き、受け止め、子どもたちの目線で考え、子どもたちが望むことを実現し、可能にしていくことが大切です。このため、子どもたちの意見を反映するための仕組みづくりについて考え、取り組んでいきます。	津市の学校では、子どもが主人公である教育に取り組んでいます。 子どもたちは、一人一人が主体的な自己を発揮し、達成感を得たり、多様な人々と協働し、自分の可能性を伸ばしたりすることができる体験や経験を通して、複雑で予測困難な時代を生き抜いていくための、学びに向かう力や自己肯定感等を育んでいます。	・学校におけるすべての教育活動において、子どもたちが活躍できる場を創出し、子どもたちの意見や考えが反映されるよう、子どもの主体的な学びや体験活動の充実を図ります。 ・持続可能な社会の創り手となることが期待される子どもたちに対し、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等における横断的な学習を通じて、E S D（持続可能な開発のための教育）を推進し、学校での学びが社会で役立てられるよう、発達段階に応じたキャリア教育の充実を図ります。 ・子どもたちが、主体的に取り組む子ども人権フォーラム等を通して、一人一人がありのままの自分で安心して暮らせる学級づくり等を進めます。 ・中学生が自らの生活の中にある課題を取り上げ、自分たちにできることをテーマに、学校や学年の枠を越えて話し合うリーダー研修会の充実を図り、自分たちが発信したことを具現化していくことで、社会参画の意識の醸成を図ります。
	⑦	ウェルビーイングの視点を持った、令和の日本型学校教育の実現を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進めます。	津市の学校では、夢や希望をもち、子どもたちが安心して学べる魅力ある学校づくりを進めており、多様な学びの環境のもと、子どもたちが、あらゆる機会に、あらゆる場所において、一人一人のニーズに応じた学習を進めています。	・人工知能（A I）等の先端技術の発達に伴い、求められる資質・能力が変化してきている中で、確かな学力や能動的に学び続ける態度を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をより一層推進します。 ・複雑化・多様化する教育的ニーズに対応し、不登校児童生徒や外国につながる児童生徒など、一人一人の状況に応じた支援を行い、多様な教育機会の確保に努め、自立に向けた力を育みます。 ・日々の学校生活の中で、子どもたちの自主的・自発的な活動を大切にし、誰もが安心して学べる居場所となるよう魅力的な学校づくりを進めます。 ・子どもたちが、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動、協働や対話を通じて考えを広げ深める活動、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、思いや考えをもとに新たな価値を創造したりする活動を計画的に取り入れた授業改善を推進します。 ・多様な人と協働しながら主体的に取り組むなど、地域学習や出会い学習を通して、達成感や自己肯定感を高めます。 ・教育支援センターが中心となり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのアウトリーチ型支援を行ったり、校内教育支援センターの設置やタブレット端末等を活用した遠隔での対応等、不登校児童生徒とつながる取組を推進します。
	⑧	I C Tの有効な活用を推進し、そのための端末の劣化・故障、さらには更新への適切な対応について取り組みます。また、端末を活用した指導・支援の充実に加え、校務の効率化等も図り、新しい時代の学びを支える学校教育環境整備の実現を進めます。	津市の学校では、個別最適な学びと協働的な学びを効果的に進めるため、これまで培ってきた実践とI C Tを効果的に組み合わせ、すべての子どもたちが可能性を伸ばし、デジタル社会で活躍できるよう取り組んでいます。 また、新しい時代の学びを支えることができる教育環境が整備され、子どもたちも、教職員も、自分の力を最大限に引き出して取り組んでいます。	・1人1台タブレット端末や大型テレビ等のI C T機器を効果的に活用し、授業と連動した家庭学習の充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを推進します。 ・I C T機器等を効果的に活用し、必要な情報を収集し、適切に創造したり発信するなど、社会で求められている新たな価値を創り出す力を育みます。 ・学校や家庭での学びにおいて、タブレット端末等のI C T機器を文房具のように日常的に活用することをめざし、落下による破損やシステムトラブルに迅速に対応できるようI C Tサポーターを中心とした学校支援を継続します。 ・特別な支援が必要な子どもや外国につながる子ども等が、集団の中で共に学ぶことができる力をつけるために、I C Tを効果的に活用した授業のより一層の充実を図ります。 ・子ども、保護者、及び教職員のすべてが、幸せだと思える学校を目指すため、年間授業時間数を最大限まで精選し、教員が子どもや保護者とゆっくと向き合うことができる時間を確保します。 ・セキュリティを確保したクラウドシステムを利用し、校務のデジタル化や、生成A Iの活用等、校務の効率化をより一層進めます。 ・教職員を対象としたI C Tの活用技術、情報リテラシー等に関する研修会を実施し、教職員のI C T活用指導力の向上を図ります。

	次期教育大綱策定の考え方 (第 5 3 回総合教育会議資料)		教育大綱本文案（めざす姿）	取 組 内 容
	⑨	子どもたちの多様化に対応することができる教育の充実のために、インクルーシブ教育の理念を踏まえて、全ての教員に対して専門性の向上のための取組に努めます。	津市の学校では、すべての子どもたちが、障がいの有無に関わらず、安心して学ぶことができるよう、誰もが個性や能力を発揮して、生き生きとした人生を送ることができる共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育の考えのもと、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行っています。	・共生社会の実現に向け、障がいの有無に関わらず、子どもたちが互いに目標を持ちながら、可能な限り同じ場で共に学ぶことができるよう、インクルーシブ教育システムの構築を図り、多様な学びの場における適切な指導と必要な支援の充実に努めます。 ・子どもたち一人一人の多様なニーズに対応できるよう、すべての教員が特別支援教育の視点を持った取組が進められるよう、特別支援教育に係る資質向上に努めます。 ・小中学校等においては、「多様な学びの場」として「通級による指導」のより一層の充実に努めます。 ・就学相談による「点」としての教育支援、学びの場の変更を含む就学後の継続的な「線」としての教育支援、さらに、家庭や関係機関と連携した「面」としての教育支援の実現を目指します。

	次期教育大綱策定の考え方 (第５３回総合教育会議資料)		教育大綱本文案（めざす姿）	取 組 内 容
4 学校、家庭、地域が つながり、子どもたちを育んでいく体制づくり	⑩	新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、学校と地域がうまくつながっていない状況もあることから、今後も、学校と地域をつなぎ、地域活動の企画、整備等を担う地域コーディネーター等の確保と育成を図り、地域学校協働活動の一層の推進に努めます。	津市の教育は、学校、家庭、地域等が、子どもたち一人一人の学びを支えていくという共通認識のもと、相互に連携・協働しながら、子どもたちを育む魅力ある学校づくりや、子どもたちが安心して活動できる居場所づくりを推進しています。 子どもを支える大人が、子どもの生き生きとした成長に関わることを通じて、地域社会全体が自らの自己肯定感を高めることができるような関係づくりを築いています。	・地域コーディネーターの資質向上に向け、生涯学習支援ボランティア制度、公民館等既存組織の活用と周知に努めるとともに、研修会等を実施します。また、広報誌、ホームページ、SNSを通して市民に向けた情報発信についても進めていきます。 ・地域とともにある学校づくりを推進するため、地域全体で子どもたちの学びや育ちを支えるため、保護者や地域住民等が教育の当事者となって学校運営に参画する学校運営協議会の充実を図るとともに、地域と学校をつなぐコーディネート機能を強化し、地域の特色や資源を生かした地域学校協働本部の体制を整え、学校と地域が連携・協働する取組を推進します。 ・先進事例等の共有を行う研修会を開催したり、経年で実態調査を行い、成果や課題、優良事例等を周知するなど、取組のさらなる推進を図ります。また、必要に応じて学校訪問を行うなど地域学校協働活動への支援を継続して行います。 ・災害時や感染症等の発生などの非常時においても、子どもたちが安全・安心に学びを継続していくことができるよう、ICTを効果的に活用できる力を育みます。
	⑪	「教員が子どもたちと向き合う」だけでなく、「教員が保護者と向き合う」ことも必要です。保護者もそれを望んでいます。また、学校運営協議会が活性化するためには、若い世代が学校教育に関わる仕組みづくりが必要です。これらの検討を図りながら、子どもたちを育むための関係づくりの構築を進めます。		
	⑫	子どもたちが安心して学校に通えることができ、また、教員が子どもたちと純粋に向き合えるよう、学校、家庭、地域、福祉等の関係機関が連携し、それぞれの役割を担っている体制づくりを目指し、取り組んでいきます。	津市の学校では、子どもたちが、安全・安心に学ぶことができ、幸せに生きるために必要な資質・能力を身に付けるため、学校、家庭、地域、福祉等の関係機関が連携・協働し、それぞれの役割をしっかりと担っている「チームとしての学校」の体制づくりが進んでいます。	・子どもたちが安心・安全に学ぶことができるため、学校、家庭、地域が相互に協力しながら対応に努めるとともに、心理や福祉等の専門家や、関係機関等と連携し、チームとして学校を支援する体制を強化します。 ・学校、家庭、地域が連携して、子どもを取り巻く人権問題や取り組むべき課題を共有し、一人一人の人権が尊重される地域づくりに取り組むための人権ネットワーク活動を支援します。
	⑬	部活動（地域移行）の方向性を示していくとともに、その情報発信についても積極的に行っていきます。また、部活動指導員等の確保について努めるとともに、地域人材等との連携の充実を図ります	津市の学校では、持続可能な部活動の運営体制を構築するとともに、休日の部活動の地域連携や地域移行に向けた環境整備が段階的に進められ、子どもたちはスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができます。	・国や県等の動向を踏まえつつ、津市部活動の在り方検討委員会において、部活動の運営体制等の検討を行うとともに、休日の部活動の地域連携や地域移行に向けた環境整備等、部活動改革の取組を段階的に進めていきます。 ・専門性を有する部活動指導員や外部指導者等の地域の人材を活用し、教職員の負担を軽減しつつ、子どもたちにとって望ましい活動となるよう、引き続き取組を進めていきます。 ・「津市立中学校部活動指針」に則り、生徒の健全な心身を養うため、部活動の意義と在り方を踏まえた平日と休日における休養日の設定など、部活動が適切かつ効果的に運営されるよう努めます。 ・短時間での効率的・効果的な部活動指導が行えるよう、顧問等の学びの場としての研修会への積極的な参加を促します。

	次期教育大綱策定の考え方 (第 5 3 回総合教育会議資料)		教育大綱本文案（めざす姿）	取 組 内 容
3 子どもたちがより良い学校生活を送るための教育環境 （施設等）の整備	⑭	学校施設の老朽化が進んでいることから、スピード感を持って対応していくとともに、今後も、子どもたちが安全・安心に学ぶための適切な環境整備に努めます。	津市の学校施設等では、安全・安心を確保しながら、適切にスピード感を持って、環境整備が進められ、新しい時代の多様な学びについても柔軟に対応しています。 これにより、子どもたちは、多くの時間を過ごす学校生活において、安心して学ぶことができます。	・学校施設の適切な維持管理に努めるため、引き続きより多くの長寿命化改修工事が実施できるように進めていきます。そのため定期的な学校施設の劣化度調査を実施していくとともに、必要な財源確保のため補助単価や補助率の引き上げ等について国・県に要望していきます。 ・長寿命化改修工事等に併せて校舎にエレベーターの整備や車椅子利用者用トイレ、スロープ設置による段差解消のバリアフリー化に取り組みます。 ・学校給食施設・設備の老朽度合いを鑑み、引き続き安定的かつ安全な学校給食の提供に支障をきたす恐れの高い施設・設備から改修を実施していきます。 ・学校給食は、安定的な供給や安全な食材利用を最優先にし、旬の食材や地場産物を活用するとともに、食物アレルギー対応等に細心の注意を払いながら提供していきます。更に、物価高騰による給食費の値上げといった保護者負担にならないよう、また、給食の質を落とさず提供していきます。
	⑮	今後も給食施設・設備の整備を進めるとともに、安定した食材調達方法の検討を進めるなど、安全・安心な学校給食が提供できる環境づくりに努めます。		
	⑯	社会基盤を支える重要な役割となっている放課後児童クラブは、利用増に伴い、学校の空き教室の活用も進んでいる中、津市では教育委員会が直接担当して取り組めることの利点を活かし、引き続き、放課後児童クラブの充実を図り、子どもの居場所づくりの確保に努めます。		